

MEXTAGE

第50期 中間 株主通信

平成30年1月1日から平成30年6月30日まで

Creating Surface Possibilities

界面創造

今期の業績振り返りと今後の事業戦略 ➡ P.1

第2四半期の業績を教えてください ➡ P.3

最先端技術にしっかり寄り添うMECの製品をご紹介します ➡ P.4

財務指標 ➡ P.5

会社概要、株式の状況 ➡ P.6

Self-driving

5G

Smart
Factory

Global

IoT

AI

メック株式会社

研究開発体制、 技術マーケティング体制を さらに強化。 新事業分野の開拓も目指す。

代表取締役社長

前田和夫

半導体需要は高まるも 電子基板の生産性や信頼性向上は ますます必須のテーマに

当中間期は半導体需要が拡大し、売上高を押し上げました。なぜ半導体の需要が拡大しているのか。これは、IoT関連の市場が成長していることや、5Gと呼ばれる新しい移動通信システム市場への投資が進んでいることが発端になっているものと捉えています。需要が拡大している一方で、電子基板の生産性向上や信頼性向上は必須のテーマとなっており、密着向上剤、エッチング剤に対するお客様の要求水準も高まってきています。そのようなご要望に応えるために、製品開発をこれまで以上にきめ細かく、速いスピードで推進していきます。



密着向上剤については、 高周波に対応するとともに、 様々な樹脂に対応できるよう開発を進行

当社の主力製品の1つである密着向上剤の成長戦略は、「高周波への対応」と「様々な樹脂への対応」です。これらに力点を置いて取り組みを行い、持続的なシェア拡大を図ります。IoTや5Gの時代になると、高周波領域で高速通信を行う必要があり、伝送損失の少ない電子基板が求められます。このようなニーズに最適な密着向上剤を当社は10年以上前から既に開発しており、それが今、ようやく実用になりました。このプロセスをより洗練させるとともに、様々なタイプの樹脂にも展開できるよう開発を進めることで、より着実に成長を続けていくことができると考えています。

エッチング剤は、 EXEの開発、異種金属対応を図る

現在、エッチング剤はスマートフォンやタブレットPC等の製造工程に使用されています。今後EXEは更なる細線化に対応できるように開発を進め、また様々な種類の金属にも対応できるエッチング剤の製品開発を行い、安定的な持続成長を目指します。



今期のポイント

押さえておきたい当第2四半期のポイントを3ポイントでまとめています。ぜひご参考になさってください。

1 当中間期は半導体需要に高まり。IoTや5Gの市場が拡大中。

2 密着向上剤は高周波に対応することでさらなる拡販を狙う。

3 コア技術を活かしながら新たな事業分野の開拓を目指す。



当第2四半期の実績

	平成29年 1月～6月 (組替数値)	平成30年 12月期 (第2四半期)	増減
売上高 (百万円)	4,960	5,499	10.9% 増
営業利益 (百万円)	912	1,039	13.8% 増
経常利益 (百万円)	910	1,042	14.5% 増
親会社株主に 帰属する四半期 純利益 (百万円)	665	889	33.6% 増
1株当たり 四半期純利益 (円)	34.57	46.39	34.2% 増

※当社は、平成29年12月期より決算日を変更いたしました。これに伴い、当第2四半期と、比較対象となる前第2四半期の期間が異なるため当第2四半期(平成30年1月1日～平成30年6月30日)に対応する前年同一期間(平成29年1月1日～平成29年6月30日)のデータを記載しております。

「事業分野の拡大」という課題の解決に向けて取り組みを推進

当社は今、「事業分野の拡大」を重要なビジネス課題としています。これまで、電子基板の強化という比較的ニッチな分野でビジネスを展開してきたことは「強み」ではありますが、中長期的には得意分野をもっと広げていきたいとの認識を持っています。そこで、当社の持つ密着向上・微細配線形成・表面処理等のコア技術を活かしながら、新たな事業分野の開拓に向けての取り組みを進めています。

研究開発体制を強化。スピードアップも図る

これまで3か所に分散していた本社機能、研究開発機能、工場機能を本社・尼崎事業所に戦略的に統合。平成29年4月より本格的に稼働を開始しています。統合の主な目的は、①研究開発や技術マーケティングの大幅なスピード向上を図る ②社内でのコミュニケーションを高め、効率の良い事業展開や新たな事業領域の開拓を実現することです。数値化することは難しいものの、既に様々な分野でその効果が現れ始めており、社内が非常に活性化していると感じています。また、今回の統合を新たな成長機会と捉え、研究員をさらに増員するなどして体制を強化し、目的達成に向けて邁進していきたいと考えています。



タイ子会社は平成31年7月に操業開始予定。配当金は配当性向30%を念頭

最後に今後の投資計画、そして配当に対する方針についてお話しさせていただきます。東南アジア市場を深耕すべく平成29年に設立したタイ子会社の操業開始は、平成31年7月を予定しております。また、中国の電子基板産業の拡大を背景にした当社薬品の需要増大をにらみ、メック中国(蘇州)の約3倍の生産能力を有する子会社設立の検討を開始しました。配当金については、従来どおり安定配当の考えを維持しながら、配当性向30%を念頭に収益状況を総合的に勘案の上、実施したいと考えております。



IoT

モノのインターネット(Internet of Things)。あらゆるモノがインターネットにつながり、人々の暮らしや産業を変える仕組み

業績の推移とあわせて 地域別の販売動向をご紹介します。

Q 当第2四半期の事業環境と業績について教えてください。

A パッケージ基板向けやディスプレイ向けが順調でした。

パソコンやタブレットPCは堅調、薄型テレビは大型化や4Kテレビの普及が継続しました。移動通信システム分野は、5Gへの切り替えニーズで市場が拡大。半導体は、パッケージ基板生産量が増加、クルマの自動運転技術の普及と連動する形でセンサー類需要も増加しました。このような環境下で、当社グループは半導体を搭載するパッケージ基板向けに高いシェアを持つ超粗化剤「CZシリーズ」の開発、販促に注力。多層電子基板向け「Vボンドシリーズ」、ディスプレイ向け「SFシリーズ」は順調に推移、高密度配線パターンを実現する「EXEシリーズ」はディスプレイ向けが堅調、銅箔の種類を選ばず粗化を実現する「UTシリーズ」は、フレキシブル基板メーカーに採用されました。結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は54億99百万円（前年同期比10.9%増）、営業利益は10億39百万円（同13.8%増）、経常利益は10億42百万円（同14.5%増）、税金等調整前四半期純利益は11億18百万円（同20.6%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は8億89百万円（同33.6%増）となりました。

※括弧内のパーセント表示は前年同一期間である平成29年1月1日～平成29年6月30日と比較した増減率です。

Q 製品別の販売状況を教えてください。

A CZとSFとVボンドが堅調でした。

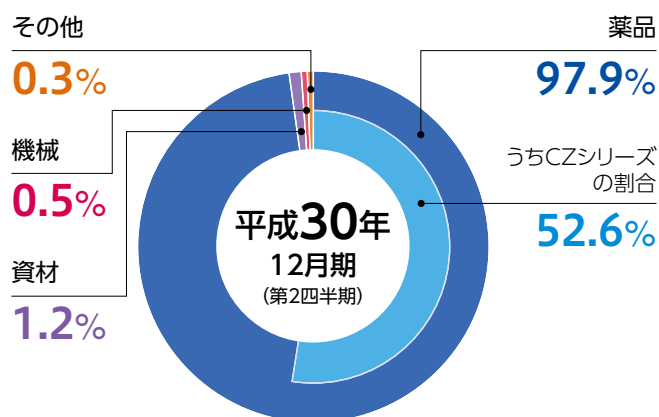
CZシリーズの売上は28億35百万円（前年同期比15.6%増）、薬品売上高に占める割合は52.6%（1.7ポイント増）でした。SFシリーズの売上は4億66百万円（同76.3%増）、Vボンドシリーズの売上は3億92百万円（同17.1%増）でした。

Q 地域別の販売動向はいかがでしたか？

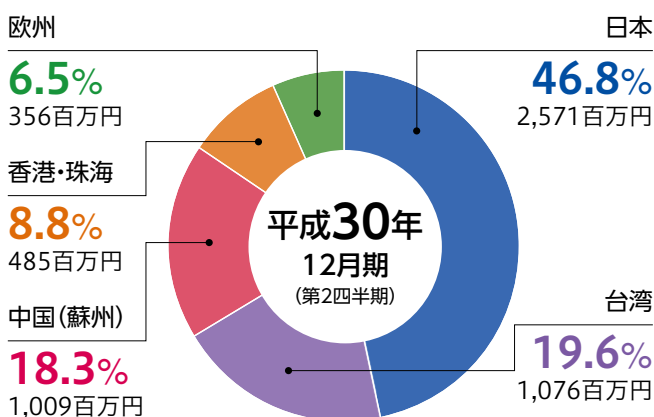
A 台湾・中国を中心に順調に推移しました。

地域別売上高（連結）における海外売上高比率は、55.0%（前年同期比3.0ポイント増）となりました。国内はディスプレイ向け薬品を中心に伸長。台湾は高密度電子基板用薬品、中国はディスプレイ向け薬品、そして香港・珠海は汎用電子基板市場で売上が順調に推移。欧州は電子基板業界全体が低迷状態にありますが、新規顧客の獲得等により堅調に推移しました。

売上高に占める品目別割合 (%)



地域セグメント別売上高比率 (%) / 売上高 (百万円)



技術キーワード

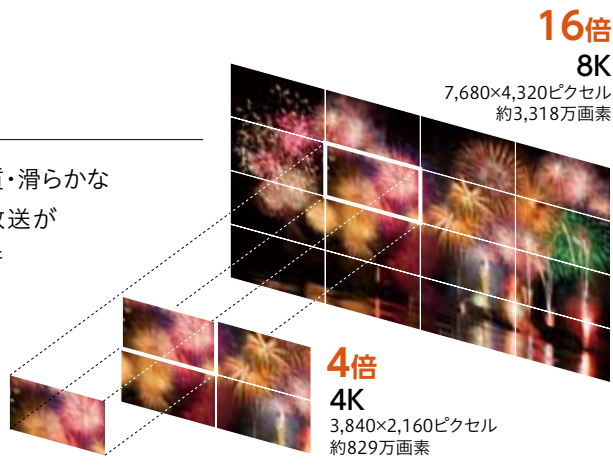
4K放送・8K放送



フルハイビジョンを超える 超高画質映像の時代がもうすぐ!

現行のデジタル放送(フルハイビジョン、2K)よりも、さらに高精細・高画質・滑らかな映像「スーパーハイビジョン」を提供する新たな放送、新4K8K衛星放送が2018年12月から始まります。デジタル放送と比べ、4Kは4倍、8Kは16倍の画素数があるため、大画面でもその映像はシャープ&クリア。もちろん、スーパーハイビジョンの超高画質を余すところなく楽しむには、対応テレビ等が必要になります。

フルハイビジョン
1,920×1,080ピクセル
約207万画素



「4K放送・8K放送」の普及とともに拡販が期待されるMECの製品

4Kテレビ、8Kテレビの進化に貢献する

微細配線形成技術 **EXEシリーズ**

EXEシリーズは、4Kテレビや8Kテレビなどに採用されているフレキシブル基板(曲げられる基板)に、半導体チップを搭載するためのエッチング剤として主に使用されています。電子基板上に配線を形成する方法には、大きく分けて「サブトラクティブ工法(サブトラ)」と「セミアディティブ工法(SAP)」の2つの方法があります。EXEシリーズは「サブトラクティブ工法(サブトラ)」の中でも特に作成が難しい、細配線を形成するため欠かせない製品シリーズとなっています。

セミアディティブ工法(SAP)

絶縁樹脂上に必要な部分を銅めっきし、配線を形成する工法

メリット 高密度化が可能

デメリット 技術的難度が高い
コストもかかる

セミアディティブ工法による配線形成



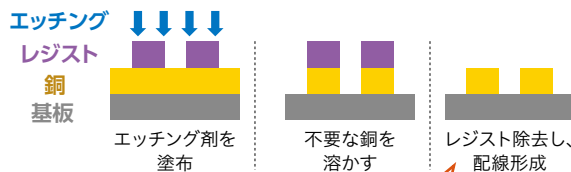
サブトラクティブ工法(サブトラ)

絶縁樹脂上に張り付けた銅箔から不要な部分をエッチング液で除去し、配線を形成する工法

メリット 技術的難度が低い。
コストを抑えられる

デメリット 高密度配線には不向き

サブトラクティブ工法による配線形成



EXE使用

配線断面上下の配線幅差が小さい



EXE未使用

配線断面上下の配線幅差が大きい



配線断面上下の配線幅の差が大きいことで物理特性の問題が生じますがEXEを使用することで配線断面を矩形型へ近づけ物理特性の向上が見込めます。

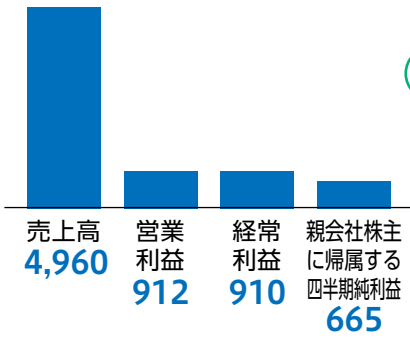
当社はこれからもEXEシリーズのさらなる普及を目指し、4Kテレビ、8Kテレビなどの進化に歩調を合わせながら販促活動を推進。採用の拡大を図って参ります。



連結損益計算書の概要(百万円)

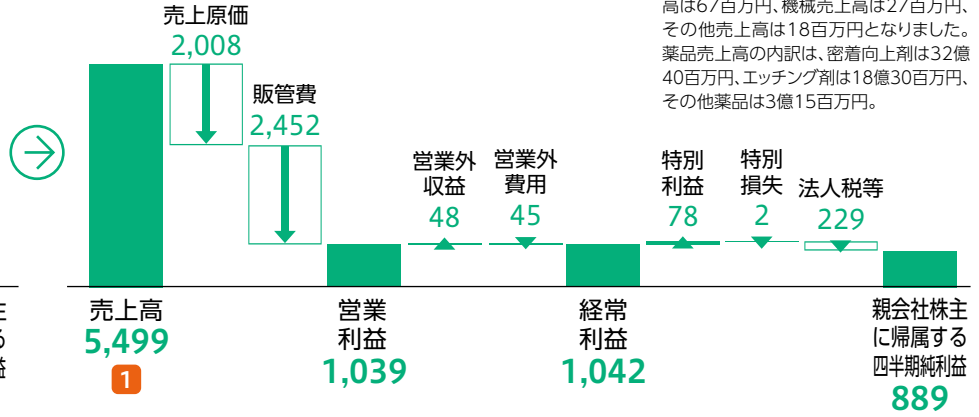
前年同一期間 組替数値

(平成29年1月1日～平成29年6月30日)



当第2四半期

(平成30年1月1日～平成30年6月30日)



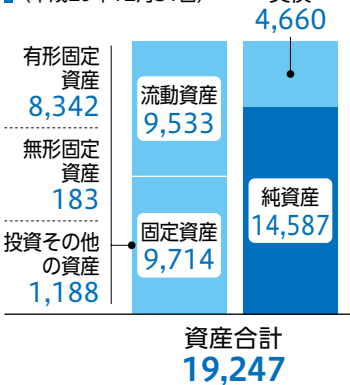
① 売上高

薬品売上高は53億86百万円、資材売上高は67百万円、機械売上高は27百万円、その他売上高は18百万円となりました。薬品売上高の内訳は、密着向上剤は32億40百万円、エッチング剤は18億30百万円、その他薬品は3億15百万円。

連結貸借対照表の概要(百万円)

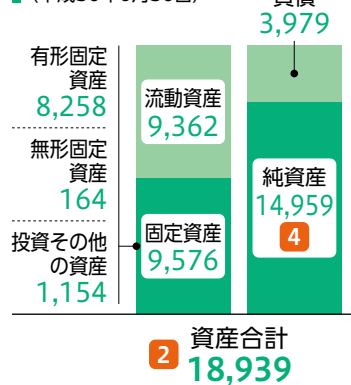
前期末

(平成29年12月31日)



当第2四半期末

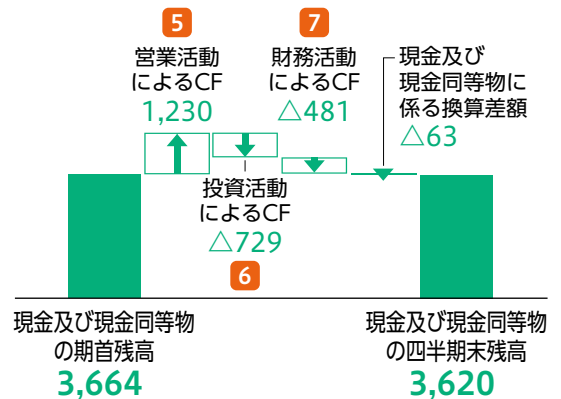
(平成30年6月30日)



連結キャッシュ・フロー計算書の概要(百万円)

当第2四半期

(平成30年1月1日～平成30年6月30日)



② 資産合計

受取手形及び売掛金、時価下落による投資有価証券等の減少により、前連結会計年度に比べ3億8百万円減少し、189億39百万円となりました。

③ 負債

未払法人税等、長期借入金などの減少により、前連結会計年度に比べ6億80百万円減少し、39億79百万円となりました。

④ 純資産

為替換算調整勘定等の減少があったものの、利益剰余金の増加により、前連結会計年度に比べ3億72百万円増加し、149億59百万円となりました。

⑤ 営業活動によるCF

営業活動の結果得られた資金は12億30百万円。これは主に税金等調整前四半期純利益が11億18百万円、売上債権の減少が3億1百万円、資金の減少要因として法人税等の支払額が4億7百万円あったこと等によるもの。

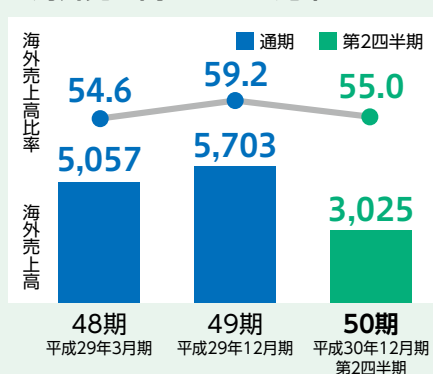
⑥ 投資活動によるCF

投資活動の結果使用した資金は7億29百万円。これは主に有形固定資産の取得による支出が4億89百万円、定期預金の預入れによる支出が純額で2億34百万円あったこと等によるもの。

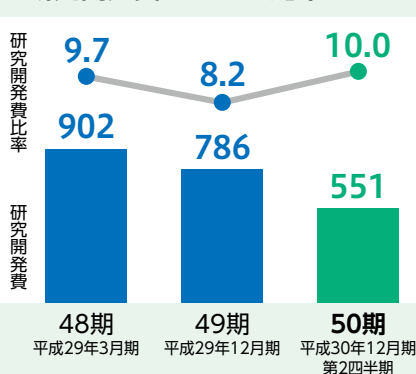
⑦ 財務活動によるCF

財務活動の結果使用した資金は4億81百万円。これは長期借入金の返済による支出が2億50百万円、配当金の支払いが2億31百万円あったこと等によるもの。

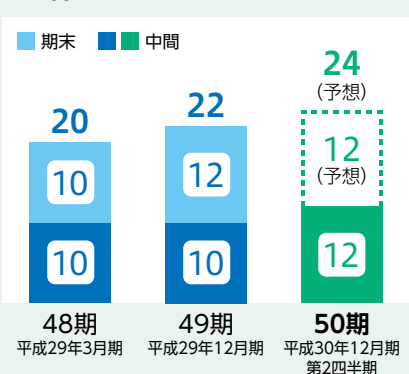
■ 海外売上高(百万円)／比率(%)



■ 研究開発費(百万円)／比率(%)



■ 1株当たりの配当金(円)



会社概要

■ 平成30年6月30日現在

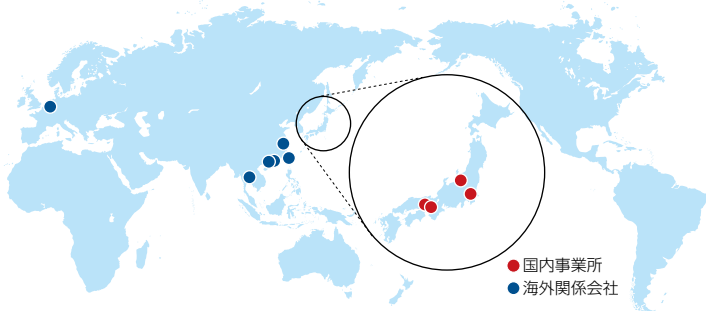


会社概要

商号 メック株式会社
 本社事務所所在地 兵庫県尼崎市杭瀬南新町三丁目4番1号
 設立年月日 1969年(昭和44年)5月1日
 資本金 594,142,400円
 事業内容 電子基板・部品製造用薬品の製造販売
 および機械装置、各種資材の販売

取締役および執行役員

代表取締役社長	前田 和夫
取締役専務執行役員	長井 眞
取締役常務執行役員	中川 登志子
取締役(社外)	西山 豊
取締役 監査等委員会委員長(社外)	佐竹 隆幸
取締役 監査等委員(社外)	田中 明子
取締役 監査等委員(社外)	高尾 光俊
常務執行役員	北村 伸二
執行役員	木田 哲郎
執行役員	中村 幸子
執行役員	武村 文夫
執行役員	門林 安津子
執行役員	高垣 秀一



国内事業所

本社・尼崎事業所
 〒660-0822 兵庫県尼崎市杭瀬南新町三丁目4番1号
 TEL. 06-6401-8160(代) FAX. 06-6401-8165

東京営業所
 〒190-0003 東京都立川市栄町六丁目1番1号 立飛ビル7号館7階
 TEL. 042-538-1080(代) FAX. 042-538-1090

長岡工場
 〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221番地36
 TEL. 0258-47-2490(代) FAX. 0258-47-2493

西宮工場
 〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜二丁目1番19号
 TEL. 0798-46-8588(代) FAX. 0798-46-8688

海外拠点

MEC TAIWAN COMPANY LTD.
 No.3, Ziqiang 6th Rd., Zhongli Dist., Taoyuan City 320,
 Taiwan (R.O.C.)
 TEL. +886-3-434-3549 FAX. +886-3-434-5047

MEC EUROPE NV.
 Kaleweg 24-26, B-9030 Gent, Belgium
 TEL. +32-9-216-7272 FAX. +32-9-216-7270

MEC (HONG KONG) LTD.
 No.8, 12/F., Tower 3 China Hong Kong City,
 33 Canton Road, Tsimshatsui, Kowloon, Hong Kong
 TEL. +852-2690-2255 FAX. +852-2690-2262

MEC FINE CHEMICAL (ZHUHAI) LTD.
 530 An Ji East Road, Sanzao Town, Jinwan Qu, Zhuhai City,
 Guang Dong 519040, China
 TEL. +86-756-762-2328 FAX. +86-756-762-2628

MEC CHINA SPECIALTY PRODUCTS (SUZHOU) CO., LTD.
 31 Linjiang Road, Suzhou Industrial Park, Jiangsu 215121, China
 TEL. +86-512-6745-1990 FAX. +86-512-6745-1993

MEC SPECIALTY CHEMICAL (THAILAND) CO., LTD.

株式の状況

■ 平成30年6月30日現在

株主状況

発行済株式総数 **20,071,093 株**

株主数 **3,824 名**

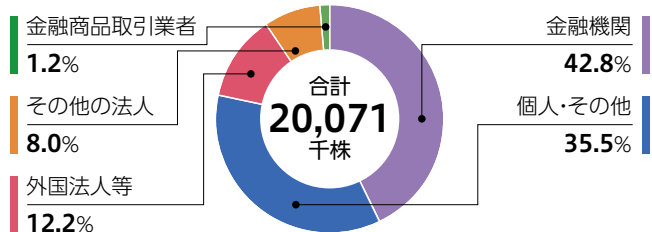
大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	所有株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,257	21.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,234	6.1
株式会社マエダホールディングス	1,199	5.9
前田耕作	1,005	5.0
前田和夫	726	3.6
野村信託銀行株式会社(投信口)	614	3.0
メック取引先持株会	529	2.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	488	2.4
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	423	2.1
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 380578	385	1.9

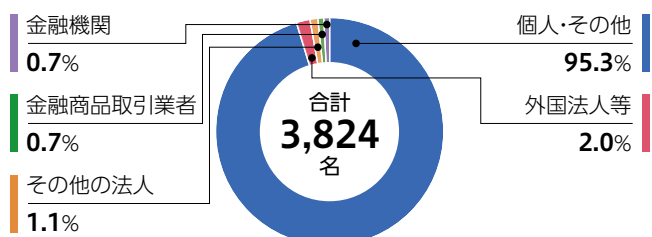
※当社は自己株式を763千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 ※持ち株比率は、小数点第二位を切り捨てて表記しております。

株式分布状況

所有者別所有株式数



所有者別株主数



※「個人・その他」には自己株式763千株を含んでおります。
 ※各比率は、小数点第二位を切り捨てて表記しております。



メック株式会社

本社事務所 / 〒660-0822 兵庫県尼崎市杭瀬南新町三丁目4番1号
TEL. 06-6401-8160 FAX. 06-6401-8165

URL <http://www.mec-co.com/>

株式に関する住所変更等の お手続きについてのご照会

1. 証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
2. 証券会社の口座をご利用でない株主様は、下記電話照会先※までご連絡ください。



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
期末配当金 受領株主確定日	毎年12月31日
中間配当金 受領株主確定日	毎年6月30日
定時株主総会	毎年3月
単元株式数	100株
株主名簿管理人 および特別口座 の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株式名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話照会先※	TEL. 0120-782-031 (通話料無料)
インターネット ホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
証券コード	4971
公告の方法	電子公告により行う。 公告掲載URL http://www.mec-co.com/ir/denshi/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

株主優待情報

保有株式数	優待内容	*毎年12月31日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式100株(1単元)以上保有の株主様を対象といたします。
1,000株未満	QUOカード 1,000円分	
1,000株以上	QUOカード 2,000円分	

ニュースメール配信サービスのご案内

当社では、ホームページにニュースリリースや新しいコンテンツが掲載された際に、ご登録者の皆様にそのタイトルとURLを電子メールにてお知らせするサービス(ニュースメール配信サービス)を行っています。

ご希望の株主様には、こちらのサービスの送信先メールアドレス(携帯電話のメールアドレス不可)を、当社ホームページまたは、RIMSNET (<https://rims.tr.mufig.jp/>)から、簡単にご登録いただけます(無料)。

アンケートのお願い

当社では、株主の皆様とのよりよいコミュニケーションを目指し、今後も業績情報の開示の充実に努めていきたいと考えています。

つきましては、この株主通信に対するご意見、ご感想をお聞かせいただきたくアンケートにご協力をお願いいたします。

ホームページのご紹介 <http://www.mec-co.com/>

当社のホームページでは
プレスリリース、株主通信、コーポレート・ガバナンス報告書 他
各種情報を掲載しています。ぜひご覧ください。



株価の推移 (平成29年7月~平成30年8月)

(単位:円)

